

主の御名をたたえる 詩篇 135:1-7	2023. 1. 8、丘の上 NO. 693 春日部福音自由教会 山田豊
-----------------------------	---

2023年、主にあって明けましておめでとうございます。本年も説教要約、日々の黙想をつづってまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

年末年始にかけて、政府からは行動制限がなされることはなく、各地の神社仏閣にはコロナ禍にもかかわらず、多くの方が初詣に行かれたことと思います。元日は日曜日だったこともあり、昨年より多くの方が諸教会の元旦礼拝に集われたと思います。

キリスト者が礼拝に集うのは、願いと感謝をささげるとともに、いやそれ以上に、天地を造られ、愛と正義をもって私たちを導いてくださる神をたたえることが中心で、そこに神の言葉、聖書が置かれています。本詩篇は、この神への礼拝、賛美へと招いている詩篇の一つです。

1-4 主の御名をたたえよとの、招きの言葉です。かつては傲慢であったヤコブに目を留め、彼の人生を変えてくださった神は、彼をご自分の宝物のように大切にしてくれています。私たちも同じように、神の前には大切な、神に愛される者なのです。

5-12 神は、天と地を造られた方であり、特に出エジプトの出来事を思い起こし、苦難の中にある私たちを救ってくださる方であることを覚えて、賛美しています。そのような出来事を知らない者であっても、6,7を読むと、私たちが自然と呼んでいる世界のすさまじさも、神による創造によってできたことを知ります。神を賛美せずにはおれません。

13-18は、偶像を造り、それを拝むことを戒める言葉です。これからの世界情勢を思う時、国家が神格化され、宗教は国家の言いなりになっていくように感じています。政教分離と言っても、国が宗教の上に立ち、これを支配するような形の分離です。無神論を標榜していても、その考え自体が宗教のようになり、国民を思うがままにコントロールするのです。独裁的国家です。このみ言葉は、黙示録の語る自然環境の破壊、力による支配という終末の国家の姿に重なります。

19-21 それでも最後は、また神への賛美に戻っています。そこにはもはや、民族や言語の違いは克服され、神に向かって新しい賛美がささげられるのです。

昨年大晦日のゆく年くる年では、聖オルバン教会(聖公会)におけるウクライナ正教会(東方教会)の礼拝の様子が中継されました。教派を超え、国境を超えて神を賛美する、天の礼拝を思わせる心温まる光景でした。

引用聖句

マルコ 9:24 するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

イザヤ 43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。

黙示 7:10 彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」

ウクライナ正教会 [Православна Церква України в Японії \(stjude.jp\)](http://pravoslavna-cerkva-ukraini.jp/stjude.jp)

聖オルバン教会 [聖オルバン教会 \(nsskk.org\)](http://nsskk.org)

2019年9月に行われた、パレスチナの子どもたちを支援するオルガンコンサートの会場教会であった。奏楽者は、ヤクブ・ガザウイ氏というユダヤ人で、その証と個人的なお話の中で語ってくださったことは、大きなインパクトがあった。その中でも「私はいつもイエスの死と一つになっているという思いで、奏楽をしています」という言葉は、印象的であった。キリスト者が目指すのは、キリストと一つになることだ。イエスが葬られ、よみがえられた場所で毎週オルガンを弾いていたら、当然そのような思いになるのであろう。イエスキリストと一つであるという思いを、いつも持ち続けていきたい。



東西キリスト教会の分裂

